

国語教育相談室

小学校
no.
89

光村図書

特集

文学教材の授業づくり

わたしは
中谷日出
自分に酔う

デジタル
「ウナギのなぞを追って」
(四年下)

国語
指導
指導の意図を
忘れずに！
毛筆指導を硬筆に
生かす工夫

平成29年度用教科書
訂正箇所

2016, いっしょにはじめませんか。
これからの学び。



学びの限らない未来をひらく。
光村図書のデジタル教科書。

体験版はホームページよりダウンロードできます。

www.mitsumura-tosho.co.jp/digital/

小学校
指導者用

平成27年度版小学校教科書準拠

光村「国語デジタル教科書」1～6年

DVD版 各72,000円＋税
ダウンロード版 各23,000円＋税

光村「書写デジタル教科書」1～6年

DVD版 各21,000円＋税
ダウンロード版 各7,000円＋税

光村「社会デジタル教科書」5年 6年

DVD版 各72,000円＋税
ダウンロード版 各23,000円＋税

光村「せいかつデジタル教科書」上下巻

DVD版 60,000円＋税
ダウンロード版 20,000円＋税

DVD版

使用期間は、平成27年度版教科書の
使用期間内です。

ダウンロード版

1年単位でのご使用も可能となりました。
使用期間は、左記期間内の1年間です。

※指導者用デジタル教科書は学校フリーライセンスです。学校フリーライセンスとは、
校内でご利用になる指導者用パソコンの台数を制限しない契約です。



CoNETS® 光村図書は、CoNETSに参画しています。
www.conets.jp

小学校
学習者用

「国語デジタル教科書」



ともに学ぶ授業に

伝え合う力が
身につく授業に

個に応じた授業に

いよいよ2017年3月に
発売決定!!

商品の情報につきましてはホームページにて
随時公開予定です。



光村図書

小学校 国語教育相談室 通巻No.173 2016(平成28)年9月28日発行
発行人＝小泉 茂 発行所＝光村図書出版株式会社 東京都品川区上大崎2-19-9 〒141-8675 電話 03-3493-2111
www.mitsumura-tosho.co.jp E-mail:koho@mitsumura-tosho.co.jp 印刷所＝協和オフセット印刷株式会社 デザイン＝mg-okada

個人情報の取り扱いに関しては、弊社「個人情報保護方針」に則り、適切な管理・保護に努めてまいります。
詳しくは、光村図書ウェブサイトをご覧ください。 www.mitsumura-tosho.co.jp 広報紙の配送停止をご希望の方は、光村図書出版までご連絡ください。

自分に酔う

私は、テレビや観衆の前で話すこと、いわゆるプレゼンテーションを仕事にしています。

よく聞かれる質問に、「どうしたら上手くプレゼンが出来るんでしょうか？」があります。その質問に私はこう答えます。『自分に酔う』ことです。『自分に酔う』という言葉の印象は、「思い上がり」や「うぬぼれ」などあまりよいイメージがありません。でも私は、『自分に酔う』ことは、表現をするあらゆる人々が、成功する最大の秘訣だと思っています。『自分に酔う』ことは、自分がやってきた訓練や培ってきた知識の対価です。『あんなに練習してきたのだから…。あんなに取材したのだから…。』という自分の誇り。だから、「みんなに自分の戦う姿を、自分のパフォーマンスを見て欲しい」と思えるんだと思うんです。オリンピックで私たちに感動を与えてくれたアスリートたちの戦いのあとのインタビューを見ていつも思

うこと、また、メジャーになったミュージシャンなどアーティストにいつも思うこと、それは、自分に酔ってない人はいないということ。逆に言うと、自分に酔わないと、よいパフォーマンスができないだと思っんです。

私は、プレゼンテーションする内容を時間がある限り、広くそして深く取材します。そして集めた膨大な情報を要約して、簡潔にわかりやすく伝えていきます。そのとき、私は心の中で「こんなに面白い情報を、こんなにたくさん集めて分析してまとめたプレゼンテーションを、みんなに早く伝えたい」と思うように、『自分に酔う』努力をしています。私たち日本人は、謙虚につつましやかにふるまうことが素敵なことだと思ってきました。もちろんそれはとても素敵なことです。私も、これからもそんな日本人でいたいと思っています。でも、それに加えて心の中で「私は、こんなにやってきたのだからスゴいですよ！」と完全によい意味で『自分に酔う』ことができる、さらに私たち日本人のよさが、日本人の本当のオリジナリティーのある強みが、出てくると思っています。さあ、みんなで自分に酔いましょう!!



神奈川県生まれ。東京藝術大学大学院美術研究科修了。広告プランニング、広告映像アートディレクターとして活動後、NHKに入局し、番組のアートディレクション、NHKロゴマークデザイン、長野オリンピック国際発信公式映像映像監督などに携わる。また、グッドデザイン賞の審査委員、アートとテクノロジーの融合を目的としたWEB TV「木曜新美術館」館長も務める。

CONTENTS

わたしとことば 自分に酔う ————— 中谷日出

特集 02 文学教材の授業づくり

理論編 ————— 桂 聖

実践編 授業レポート「わたしはおねえさん」第3時

桂先生の授業づくりのポイント ————— 阿部 昇

教育コラム 14 アクティブ・ラーニングと国語の力 ————— 高木まさき

デジタル教科書を効果的に活用しよう1 16 「ウナギのなぞを追って」（4年下）
— 画像と文章を関連させながら読むことで、読みを深める — ————— 高崎智志

楽しく身につく書写の時間1 20 毛筆指導を硬筆に生かす工夫 ————— 松本健作

なるほど国語指導7 24 指導の意図を忘れずに！ ————— 作・画／あべかよこ
監修／興水かおり

国語・書写 平成29年度用教科書 訂正箇所のお知らせ

文学教材の 授業づくり

今号の特集テーマは、文学教材の授業づくりです。
筑波大学附属小学校 桂聖先生に、「わたしはおねえさん」（二年下）を例に、指導計画の立て方や、具体的な指導方法をご紹介します。
桂先生の実際の授業の様子をリポートしたページもありますので、あわせてご覧ください。
そして最後に、秋田大学大学院 阿部昇先生に、本実践のポイントを分析していただきます。

撮影：長岡博史

理論編

筑波大学附属小学校 教諭

桂 聖



1965年山口県生まれ。日本授業UD学会理事長、全国国語授業研究会理事。著書に、『国語授業UDのつくり方・見方』（学事出版）、『文学授業のユニバーサルデザイン』（東洋館出版社）などがある。光村図書小学校「国語」教科書編集委員。

はじめに

文学教材で何を教えるのか

文学教材の授業では「文学教材の論理的な読み方」を教えることが大切だと考えています。

例えば、四年の文学教材「ごんぎつね」では、ほとんどの教室で「ごんの心情を読み深める」授業をしています。しかし、それと同時に「心情の読み深め方」を指導している教室は、そう多くありません。

心情を読み深めるには、「会話文」「行動描写」「心内語」「副詞的表現」「情景描写」などの表現に着目します。また、「中心人物の心情の変化」「登場人物の相互関係の変化」を捉えます。

こうした読み方を段階的・系統的に指導していくことが大切です。

ただし、こうした読み方を使って解釈するのは、子ども（読者）です。私たち教師は、子どもに解釈を押しつけることはできません。解釈のツールとしての読み方を教えて、子ども自らが解釈を深めて、作品を適切に評価できるように指導します。

本稿では、文学教材の論理的な読み方を、

授業で楽しく学んでいくためのアイデアをご紹介します。

文学教材の論理的な読み方

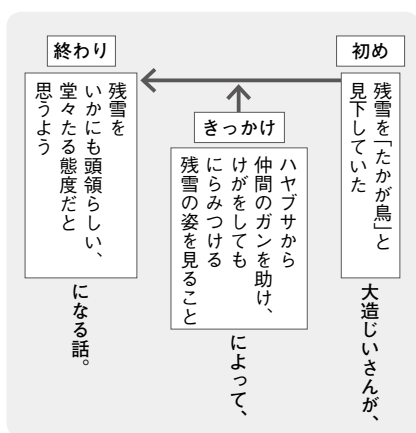
文学教材は、次の七つの観点（※）から論理的に読んでいくことが必要だと考えます。

- 1 作品の構造
- 2 視点
- 3 人物
- 4 主題
- 5 文学の表現技法
- 6 文種
- 7 活動用語

この中で特に大切なのが、③の「人物」の観点から読む力です。概して言えば、低学年では、「中心人物の気持ちの変化の大体を読み取る力」、中学年では「中心人物の気持ちの変化を明確に読み取る力」、高学年では「登場人物の相互関係の変化を読み取る力」が求められます。教科書には、一年から六年までさまざまな文学教材が載っています。どの教材でも、中心人物の変化を追うことが主な学習になっていると言っているでしょう。中心人物の変化を捉えることができれば、高学年でその教材の主題に迫ることもできます。

図1は、「大造じいさんとガン」（五年）の中心人物の変化を図解したものです。どの文学教材も大抵このような構造になっています。つまり、中心人物の心情や、ものの見方・考え方は、あることをきっかけに大きく変化するのです。

中心人物の変化を視覚的に捉えられるように、私の授業では、いつもこの図を示すようにしています。「初め」「きっかけ」「終わり」で中心人物を捉えていくことは、物語の要約にもなります。低学年の場合は教師が整理して示し、中学年になったら、自分で書けるようになります。そして、高学年の場合は、図を使って主題を考えられるようにするというように、発達段階に応じて指導していきます。



▲図1 中心人物 大造じいさんの変化

※観点①～⑦の詳細は、『筑波発 読みの系統指導で読む力を育てる』（東洋館出版社）参照。

教材研究と指導計画づくり

ここからは、「わたしはおねえさん」(二年下)を例に、文学教材の授業づくりについてお伝えします。

ねらいを明確に

「わたしはおねえさん」は、小学二年生の女の子すみれちゃんが登場する物語。学習者にとってはまさに等身大の人物です。教科書には、「じんぶつと自分をくらべて読もう」という単元の目標が掲げられており、「あらすじを紹介する」という言語活動が設定されています。本稿では、次のような指導計画を立てました(資料1)。

前ページで述べたとおり、文学教材は、「中心人物の変化」を捉えることが学習の中心になります。「わたしはおねえさん」の場合、教科書64ページのすみれちゃんの気持ちの変化する場面が教材の山場であり、これを理解できるかどうかのポイントになります(資料2)。教師はつい、一つの教材から多くのことを教えたくりますが、複数のことを一度に教えようとすると、結局

どれも中途半端になることが少なくありません。計画を立てる際、ねらいを絞ることが大切です。

文学教材の単元は、次のように3次で構成すると分かりやすい。

- 第1次…教材の大体の内容を理解する
 - 第2次…論理的な読み方を学ぶ
 - 第3次…第2次で学んだ読み方を活用する
- ※最後に必ず活用させて、学習方法の有効性を子どもに実感させることが大切です。

「わたしはおねえさん」指導計画(全6時間)

第1次

作品「わたしはおねえさん」のいいところは？

- 1時 すみれちゃんの変化をおおまかに捉える。(読み聞かせ、気持ちの変化に着目、他の話の紹介)

第2次

すみれちゃんって、どんな子？

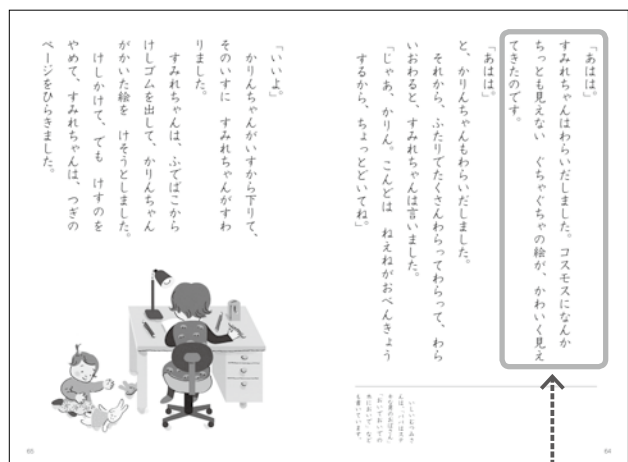
- 2時 すみれちゃんの言動から人物像を捉える。(音読、言ったこと・したこと・気持ちを自分と比べる)
- 3時 すみれちゃんの人物像から変化を捉える。「なぜ、かわいく見えたのか？」人物像から変化を捉える、自分と比べる)

第3次

小学生の物語を読んで、あらすじを紹介しよう

- 4時 「わたしはおねえさん」のあらすじについて話し合う。(あらすじの紹介のしかたを確認する)
- 5時 小学生(できれば1～3年生)が中心人物の物語を読む。(人物像やあらすじを考えながら読む)
- 6時 読んだ本の人物像やあらすじを紹介しよう。(班や全体で話し合う)

▲資料1



▲資料2 2年下P64-65

すみれちゃんの気持ちが変わる場面。本教材を学習するうえで重要な部分です。

能動的な学びをつくる工夫

前ページで述べたように、指導のねらいを明確にすることが大切ですが、ここで注意したいことがあります。このねらいは、あくまでも教師が教えたことであり、これを子どもが学びたいことに転化しなければなりません。子どもが自ら考えたいくなる、話したくなるような能動的な授業をつくるのが大切です。そのためには、いくつかの手立てが必要です。

第1時 山場に着目させる

第一時の導入では、教材の読み聞かせを行います。教科書は閉じたままで、教師の読み聞かせのみで物語の内容を押さえていきます。

その際、次の場面で読み聞かせをいったん止めて、子どもたちにその後の展開を予想させます。

・61ページの終わり
(すみれちゃんが水やりから戻ってくる
と、かりんちゃんがノートにぐちゃぐちゃのものをかいているところ。)

・63ページの終わり
(ぐちゃぐちゃのものは「お花」だと知り、すみれちゃんがノートをじっと見つめているところ。)

これらの場面の展開を予想させることによって、子どもたちは自然に中心人物の行動や気持ちに着目します。また、教師は子どもたちの初発の感想をつかむことができます。その後の授業計画にも生かすことができます。

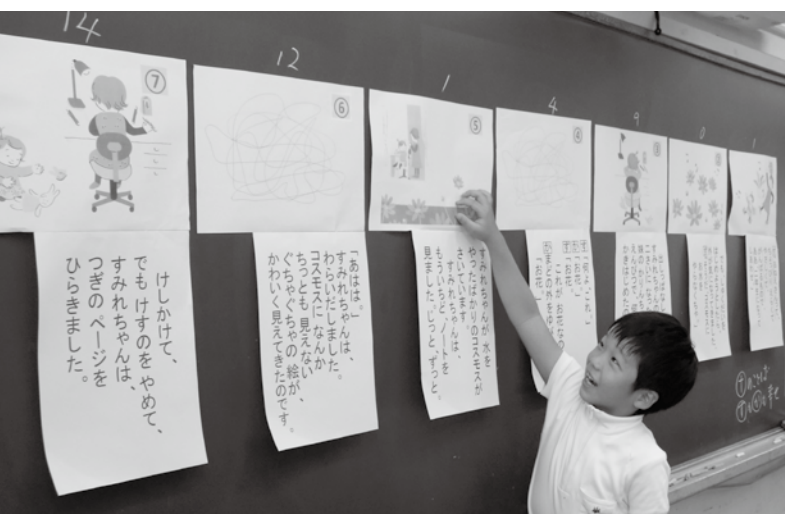
第1～3時 すみれちゃんの変化を捉える

本単元では、人物の変化を捉えるために、センテンスカードを使って、授業を進めていきます(資料3)。このセンテンスカードは、教材全文体を数枚のカードにまとめたもので、ストーリーの初めから終わりまでを一覧できるのが特徴です。文学教材は大抵五～七枚に整理できます。

このカードにはさまざまな使い方があります。例えば、カードの順序を替えて掲示

し、子どもたちに間違い探しをさせます。なぜその順序だとおかしいのか、理由を考えさせながら行います。子どもたちは間違い探しのような活動が大好きです。張り切って取り組む中で、物語のあらすじをつかむことができます。

今回の授業では、すみれちゃんの気持ちの変化に着目させるためにカードを使用します(次ページ資料4)。この七枚のカードは、あらすじをつかめるのはもちろんのこと、すみれちゃんの行動や気持ちの変化に



▲資料3 センテンスカードを使った授業の様子

▼資料5 「あらすじクイズ」
まずは《①初め》と《②終わり》を提示。

① ○○○をもらえなくて、
不幸せだと思っていた
Aさんが、
※中心人物の人物像

② 幸せな気持ちになった話
【どうなった（どうした）話】
※結末



▼資料6
最後に、《③きっかけ》を提示。

① ○○○をもらえなくて、
不幸せだと思っていた
Aさんが、
※中心人物の人物像

② 幸せな気持ちになった話
【どうなった（どうした）話】
※結末

③ Bくんが
○○○を書いたことを
聞いたことによって、
【によって】
※きっかけ

第4時 あらすじをまよめる

第三次では、自分が読んだ本のあらすじを紹介する活動を行います。この活動に入る前に、クラス全員がよく知っている物語を例にして、あらすじのまとめ方を学習します。

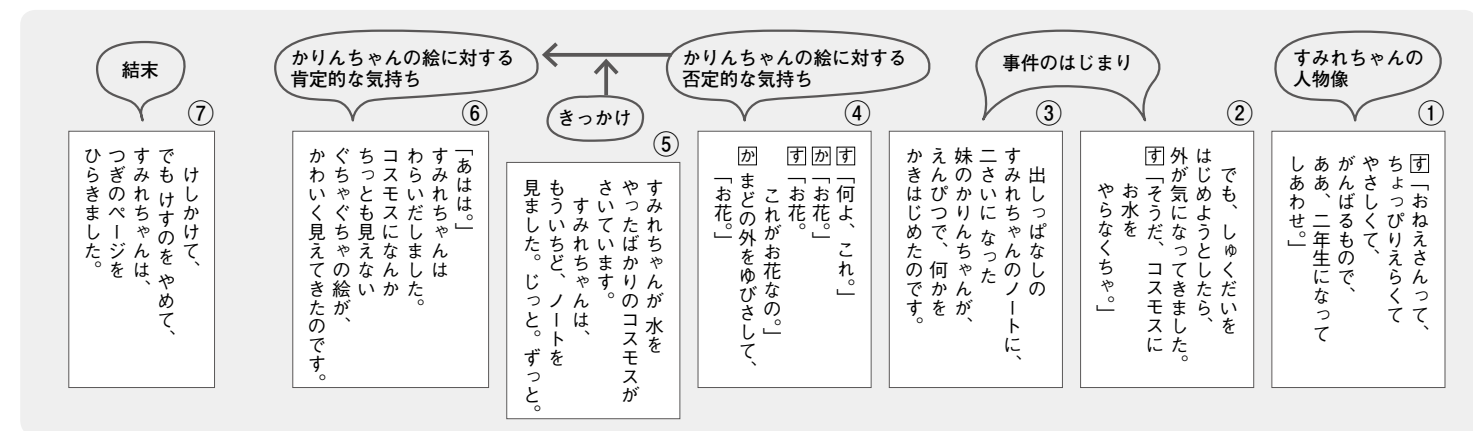
「あらすじクイズ」と題し、文章の初め・終わり・きっかけから、これが何の物語なのか子どもたちに当てさせます。最初に、

資料5のように、《①初め》と《②終わり》だけを提示します。この時点で答えが分かった子どもには、分かっている子どもに向けてヒントを出させます。

次に、資料6のように、《③きっかけ》の部分の提示します。あらすじのまとめ方を学習するうえで、この提示順は重要です。《初め》と《終わり》を明確にしたうえで、それに合う《きっかけ》を入れると、あらすじがまとめやすくなります。

さて、左のクイズの答えは、お分かりでしょうか。読者の皆さんもよく知っている「お手紙」（二年下）です。

クイズ形式にする目的は、子どもの思考を活性化させるためです。自然に話しくなる、考えなくなる授業になります。



▲資料4 「わたしはおねえさん」 センテンスカード ㊦…すみれちゃん ㊧…かりんちゃん

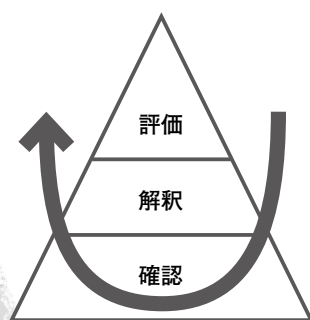
着目できるように整理してあります。具体的な使い方は次のとおりです。

第一時の読み聞かせの後、七枚のセンテンスカードを黒板に貼り、いちばんいいと思った場面はどれか選ばせます。一人一人が自分の意見をもつようにするために、全員を起立させ、カードの番号を決めた子どもから座るというルールにします。そして、どうしてその場面がいいと思ったのか、その理由を説明する場を設けます。最初に自分の意見を明確にするのは、次の「三つの読む力」で述べるねらいによるものです。

全時 三つの読む力

下段の図2は、文章を読むときの「三つの読む力」を図式化したものです。

評価読みは、確認読みや解釈読みがベースになっています。しかし、確認読みや解釈読みに終始する授業は、子どもにとって魅力的とはいえません。文章を読むということは、本来、共感したり疑問をもったりするなど、評価しながら読むということですから。適切に評価しながら読める読み手を育てることが、国語科の目標であるはずですから。そこで、図2の矢印のように、あえて評価読みから入り、解釈読み、確認読みを行



▲図2 三つの読む力

い、また評価読みに戻るという順番にします。最初に自分の意見を明確にすることで、教材に主体的に向き合うようになります。教材文を読んで、初発の感想を交流するという指導はよく行われていますが、単に、「どうだった?」と問いかけても、ありきたりの意見しか出てこないでしょう。このような漠然とした問いかけにすぐ答えられるのは、一部の理解力の優れている子どもだけです。

いっぽう、上段の資料4のように、七つの選択肢を作り、「いちばんいいと思った場面はどこ?」と問いかければ、誰もが答えやすくなります。肝心なのは、なぜいいと思ったのか、その理由を述べられるかどうかです。考える手がかりがあると、全員の子どもが具体的に考えやすくなります。

全時 話し合い活動

低学年の場合、自分の考えを書いて表現することには限界があります。授業の中で、どんな発言をするかが重要です。友達との交流によって、今まで見えなかったものが見えてくるのが話し合い活動です。その中で、子どもたち自身も話し合い活動の意義を実感することができます。国語は、一部の理解力の優れた子どもだけで授業が進み、傍観者の子どもをつくってしまうことがあります。そうならないように、話し合い活動は、例えば、次のような手立てで慎重に進めていきます。

■友達の意見を説明させる

誰かが発言したら、「今、○○さんが言ったこと分かる?」と問いかけ、他の児童に説明させます。説明することによって、意見がより明確になります。理解できていない子にとっては、同じ内容をもう一度聞けるチャンスにもなります。

■ペアでの話し合い活動を設定する

全員に発言の機会を設けるためには、ペアでの話し合いが有効です。一対一なので、どの子も発言しやすくなります。

※話し合い活動の具体例は、次ページからの授業リポートをご覧ください。

「なぜ、かわいく見えたのか？」

筑波大学附属小学校

桂聖先生

× 二年生（三十二名）

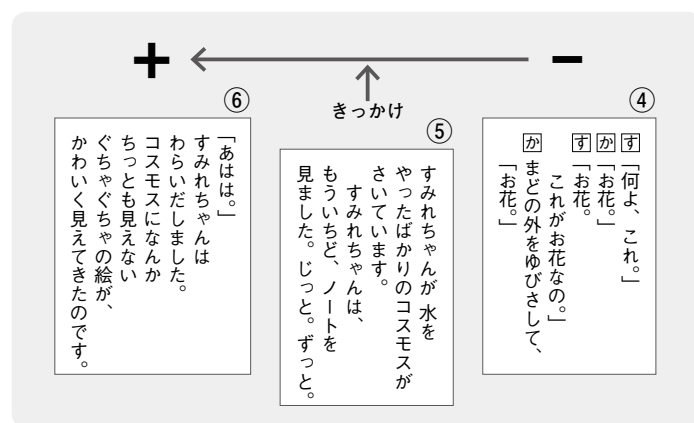


ここからは、桂先生が実際にどんな授業をされたのか、本誌編集部がリポートします。

本時は、教材の山場である、すみれちゃんが笑いだした場面に迫る学習です。第一時の初発の感想では、この場面のすみれちゃんの行動が理解できないという子どもが多数いました。本時の学習で、子どもたちの考えはどのように変容するのでしょうか。

* * *

黒板には、第一時から使用している、七枚のセンテンスカードが貼つてあります。授業の冒頭、桂先生は、④⑤⑥の場面（下図参照）について、全員に問いかけました。



▲「わたしはおねえさん」センテンスカード④～⑥の場面



先生 ④の場面がマイナスで、⑥の場面がプラス。この図の意味が分かる人はいる？
※この学級では、登場人物の気持ちをプラスとマイナスで表現する方法を、他の単元で経験しています。
児童（数名挙手）
先生 じゃあ、まずは隣りどうしで意見を交換してみよう。

児童 きつかけがあつて、マイナスからプラスに変わったんだと思う。
先生 そうだね。⑤の場面がきつかけだね。何がマイナスとプラスなの？
児童 A（④の場面の）「何よ、これ。」がマイナスで、⑥の場面の「かわいく見えてきた」がプラス。
先生 今、Aさんが言ったことは分かる？分かる人、もう一回説明してみて。



児童 「何よ、これ。」がマイナスで、「ぐちゃぐちゃの絵が、かわいく見えてきた」がプラスの気持ち。
先生 誰の気持ち？
児童 すみれちゃん。
先生 ④の場面では、すみれちゃんがマイナスの気持ちだったのが、⑤のきつかけで、プラスの気持ちに変わったんだね。
児童 ここ④で、かりんちゃんはお花つて気づいてはなかったのに、すみれちゃんはお花なのかわからなくてマイナス。でも、じつとずつと見ていたら、かわいく見えてきたから、「じつと。ずっと。」がきつ

かけで、こつち⑥がプラス。
先生 じつとずつと見ていたら、ぐちゃぐちゃの絵がかわいく見えてきたんだよね。この気持ち分かる？
分かる人。（半分くらい挙手）
分からない人。（半分くらい挙手）
みんな、自分の意見が正直に言えていいね。分からない人が大勢いるから勉強しているんだよね。では、今日の学習のめあてはこれです。

そう言いながら、桂先生は本時のめあて「なぜ、かわいく見えたのか？」を板書しました。そして、前時に学習したすみれちゃんの人物像について思い出させます。

先生 すみれちゃんはどうな子だったけ？

児童 外が気になる子。

先生 どこに書いてあった？

児童 宿題をやるうとしたんだけど、「コスモスにお水をやらなくちゃ。」って。宿題じゃないことを考えてる。

先生 なるほど。みんなも、宿題をしようと思ったんだけど、他のことが気になって……っていう経験ある？

児童 あるよ！宿題をやるうとしたら、飼っているメダカが気になって……。ずっと見ていたら、お母さんに怒られた。

児童 宿題をやるうとしたら、おやつが食べなくなっって、その後テレビを見ちゃった。



先生 今の話、自分もそういうことがあるなあって思った人いる？

この問いかけには、ほとんどの児童が「ある！ ある！」と大きな声で反応しました。宿題をやるうとしたけれど、コスモスに水をやりに行ったすみれちゃんの行動には、共感できるようです。

先生 他に、「すみれちゃんって、こんな子」っていうのはある？

児童 歌を歌うのが好きな子。

先生 この中にも、歌を歌うのが好きな人はいいる？

児童 (数名挙手)

先生 どんなときに歌うの？

児童 勉強してつまなくなったときとか、集中できなくなっったとき、歌いながらやる。先生 なるほど。じゃあ、この場面(資料4①)をもう一度声に出して読んでみよう。

全員 「おねえさんって、ちよっぴりえらくてやさしくて、がんばるもので、ああ、二年生になっってしあわせ。」

先生 みんなもすみれちゃんと同じ二年生だけど、今の場面に書いてあるすみれちゃんの気持ち分かる人はいいる？

児童 分かる！ 例えば、一年生に分から

どんどん発言をし始めました。

児童 なぜかわいく見えたかというところと見ていたからだと思う。

児童 付け足し！ 一年生はじつとずっと見るってつまなくてやらないでしょ。でも二年生になっって、優しくなっったからじつとずっと見れて、それでかわいく見えた。

児童 すみれちゃんの妹が描いた絵だからかわいく見えたんだよ。知らない二歳の子が描いたらかわいく見えないと思う。

先生 なるほど。自分の妹だからこそ、かわいく見えたんだ。

児童 昔、自分もあんな下手な絵を描いていたなあって思い出して、そんな自分が笑えてきたんじゃない。

先生 そういうこともあるかもしれないね。じゃあ、自分にもしも妹がいたとして考えてみて。ノートをぐちゃぐちゃにされまして。さあ、どうする？

児童 えー！ 消すかも……。

児童B 僕の妹は二歳だから、こんなふうで、めっちゃくちゃ絵を持ってくることがあるよ。「にいにー、これ見て」って言いながら持ってくる。

先生 そのとき、Bくんはどうするの？

児童B 「すごいねー」って言ってあげる。



ないことを教えてあげたり、道に迷ったときにこつちだよって教えてあげたりするのは偉い。

先生 偉いし、優しいね。すみれちゃんって、そういう子なんだね。

すみれちゃんの人物像がはつきりしてきたところで、桂先生は、教材の山場である、すみれちゃんの気持ちの変化についても一度、問いかけました。

先生 じゃあ、⑥の場面の「ぐちゃぐちゃの絵が、かわいく見えてきた」ってどういうことかな？

児童 二歳のかりんちゃんが、がんばって



先生 おつ、褒めてあげるんだ！

児童B うん。絵よりも、その言い方がかわいいなと思う。

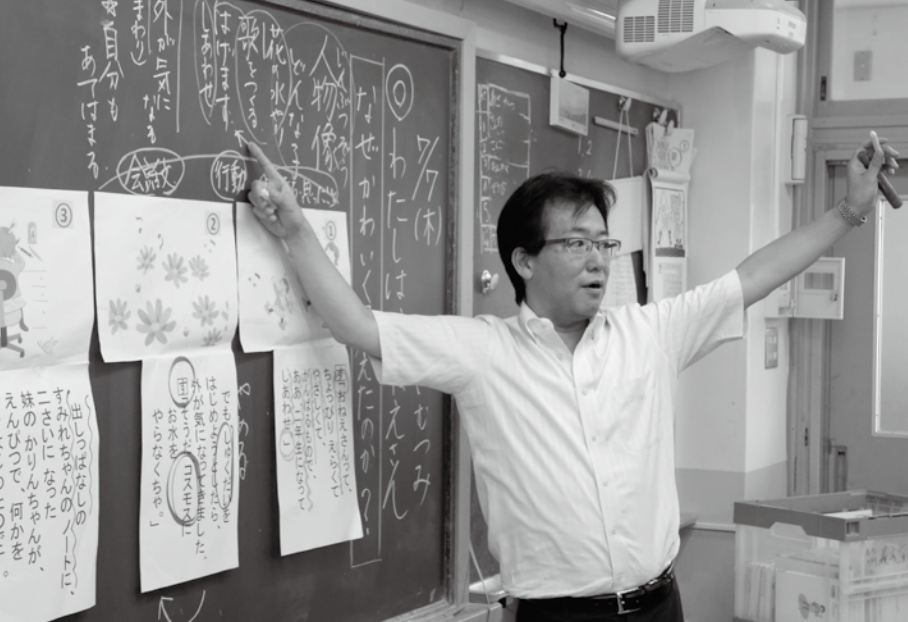
児童 私だったら、褒めてあげて、また描いてねって言うってあげる。

児童 私はノートを一枚ちぎって、これに描いていいよって渡す。

先生 「何これー」って怒る人はいないの？ 児童 僕は「何これー」って言うー！ すみれちゃんの気持ちはちよっただけ分かるけど、僕は違うなあ。

すみれちゃんの気持ちに近づいたところで、授業終了のチャイムが鳴りました。児童の発言は尽きず、「もう終わりなの？」という声上がるほど。

桂先生は、最後に、「なぜ、かわいく見えたのか」、自分の意見をノートに書くよう声をかけ、授業を終えました。



絵を描いたんだな〜って思った。まだ二歳なのに、一生懸命描いたからかわいく見えた。

このとき、複数の児童から、「そうか〜」と納得する声が上がりました。第一時では、このときのすみれちゃんの気持ち理解できなかつた多数の児童が、確信した表情で

授業を終えて

—桂先生より—

教材の特性と授業のねらい

この教材でいちばん難しいのは、「すみれちゃんがりんちゃんの絵を見て、笑いだした理由」です。

確かに、「コスモスになんかちつとも見えないぐちゃぐちゃの絵が、かわいく見えてきたのです」という理由は書かれていますが。第一時においても、子どもは、その理由の表現を見つけることができました。

しかし、「自分のノートへの落書きがかわいく見えてきたって、このすみれちゃんの気持ちは、なるほど、よく分かるって感じかな?」と問い返すと、「うーん、よく分からない」と言う子がほとんど。

つまり、「かわいく見えてきた」という言葉は確認できても、お姉さんとしてのすみれちゃんの心情変化には共感できていないのです。

すみれちゃんは、そもそも「ちよつぱり

読み方で解釈を深める

えらくて やさしくて、がんばる」お姉さんになりたい子。でも、宿題をがんばろうとしても、外の花が気になってしまうこともある。第二時では、そんな「すみれちゃん的人物像」を確認しました。

そのうえで、この第三時で「かりんちゃんの花がかわいく見えた理由」について、再度、互いの解釈を交流するようにしました。

授業では、リポートにあるように、「かわいく見えた理由」について、さまざまな解釈が出てきました。

「まだ二歳なのに、一生懸命描いたから」「二年生になって、優しくなったから」「(自分の)妹が描いた絵だから」「昔、自分もあんな下手な絵を描いていたなあって思い出した(から)」など、すみれちゃんのように、

お姉さんの立場から解釈することができていました。

また、「もしも自分に妹がいたとして、どうする?」と、問いかけたところ、「消すかも!」という意見がある一方で、「すごいね」「また描いてね」と褒めてあげるといった意見も出ました。

「かわいく見えた理由」には、答えはありません。しかし、すみれちゃん的人物像を関連づけたり、すみれちゃんと自分を比べて読んだりすることで、解釈が深まります。

人物像を関連づけて気持ちを読み取ったり、登場人物と自分を比べて読んだりする読み方は、他の文章を読むときにも使える「文学教材の読み方」です。

理論編の冒頭でも述べたとおり、このような「論理的な読み方」を教えることが大切だと考えています。

桂先生の授業づくりのポイント

秋田大学大学院教授 阿部 昇

教材の読み方を段階的・系統的に学ばせる

桂先生の文学の授業の特長は二つあります。一つ目はその作品を読むことを通して、子どもたちに文学の「読み方」をしっかりと指導し学ばせていることです。文学の授業ではその作品を読むことには熱心でも、それを通してどういう力をつけるかが曖昧な場合があるのですが、桂先生は子どもたちに「読む力」をしっかりとつけています。二つ目は、その「読む力」を行き当たりばったりでなく、段階的・系統的につけていくという戦略をもっていることです。だから、子どもたちは前の教材で学んだ「読み方」を、次の教材の読み取りで生かすことができる。そしてさらに新しい「読み方」を学んでいくのです。

「わたしはおねえさん」を学習するのは二年生ですので、子どもはそれ以前にそうたくさん「読み方」は学んでいないかもしれません。しかし、ここで学んだ「中心人

物の変化」を捉えること、クライマックスに気をつけて読むこと、伏線に気をつけて読むことなどは、三年以降の文学の授業で十分生きていきます。

クライマックスに着目した読み

桂先生は、物語の中で最も大きな節目となる部分であるクライマックスを核として読みを深めています。この物語では、中心人物の変化がいちばん大きい「『あはは。』／すみれちゃんはわらいだしました。／かわいく見えてきたのです。」がクライマックスです。この部分に着目することは、物語を読み取るうえでとても大切なことです。先生の援助もありますが、子どもたちは自然とこの作品のクライマックスに着目していつています。そして、「マイナスからプラスに変わった。」「二歳のかりんちゃんが、一生懸命描いたからかわいく見えた。」などの読み取りをしています。



1954年東京都生まれ。日本教育方法学会常任理事、全国大学国語教育学会理事。著書に、『国語力をつける物語・小説の「読み」の授業—PISA読解力を超えるあたらしい授業の提案』[確かな「学力」を育てるアクティブラーニングを生かした探究型の授業づくり] (以上、明治図書) などがある。光村図書小学校・中学校「国語」教科書編集委員。

また、それに関わって「評価読み」を位置づけていることも大切です。

導入部や展開部の伏線にも気づかせる

クライマックスに至るまでの導入部の設定、展開部の伏線などへの着目も、物語の読み取りでは大切です。

桂先生の授業では、導入部の「おねえさんって、ちよつぱりえらくてやさしくて、がんばるもので、ああ、二年生になってしあわせ。」という設定にしっかりと戻りながら読み取りが進んでいます。また、展開部で宿題をやらうとしたすみれちゃんが花に水をやりに行ってしまうという伏線にも着目させています。

二年生でも、丁寧な指導があればここまでの読み取りが可能です。そして、それらを「読み方」として身につけ、次の作品の読み取りで生かしていくことになります。

アクティブ・ラーニングと国語の力

横浜国立大学教授

高木まさき



1958年、静岡県生まれ。横浜国立大学教授。中央教育審議会国語ワーキンググループ委員、全国的な学力調査の実施方法等に関する専門家検討会議委員などを歴任する。「ことばと学びをひらく会」会長。著書に「[[他者]]」を発見する国語の授業（大修館書店）など。光村図書 小学校・中学校「国語」教科書の編集委員を務める。

資質・能力とアクティブ・ラーニング

二十一世紀は、いわゆる「知識基盤社会」の時代だといわれてきました。さらにこれからは、グローバル化・情報化がいつそう進み、将来の予測が困難な、複雑で変化の激しい社会状況が想定されています。そのような時代にあっても、子どもたちが個々の人生を切りひらき、ともによりよい社会を創り出していくよう、必要な資質・能力を育成することが求められます。

学習指導要領の改訂に向けて、中央教育審議会（中教審）では、全ての教科等において、次の三つの柱に基づいた資質・能力の構造化を進めています。

- ①何を理解しているか、何ができるか（知識・技能）
- ②理解していること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）
- ③どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力・人間性等）

これらの資質・能力は、それぞれ別々に育まれるものではありません。①②③が相互に関連し合い、総合的に育まれるような質の高い学習の在り方が求められているのです。

そこで注目されたのが、アクティブ・ラーニングという学びの視点、すなわち「主体的・対話的で深い学び」をいかに実現するかという学習・指導改善の視点です。

アクティブ・ラーニングは「型」ではない

「アクティブ」というのは、「活動している形態」のことではなく、いかに子どもたちが頭の中を活動的にして、しっかりと考えているかという「学びの質」に関わるものです。新しい方法論が出てくると、どうしてもその展開のしかたに注目がいきましますし、なかには「アクティブ・ラーニング型の授業」を提唱する研究者もいます。

しかし、今求められているのは、特定の指導の型や方法ではありません。あくまでも、無限の学習プロセスからの「学びの質」の問い直しだということに留意すべきでしょう。では、国語科とはどう関わるのでしょうか。

アクティブ・ラーニングと国語の力

①アクティブ・ラーニングを支える言語活動

文部科学省の「用語集」では、アクティブ・ラーニングの例として、問題解決学習や調査学習、グループワーク等を挙げています。これらの学習活動を、主体的・協働的で、思考・判断・表現を伴う深い学びにするために、「話す・聞く」「書く」「読む」などの言語活動はこれまで以上に重要な役割を果たすのです。

②アクティブ・ラーニングを支える国語の力／アクティブ・ラーニングが育む国語の力

個々の言語活動は、言葉の力によって支えられています。また、主体的な言語活動を展開するアクティブ・ラーニングを通じて、言葉の力はさらに身につくものです。言葉がもつこの二つの側面を常に考えていく必要があります。

③言葉への気づきを学習の軸に

中教審の国語ワーキンググループでは、深い学びのために重要な「国語科ならではの思考の枠組み」として、「言葉に着目して言葉の働きを捉える」という国語科固有の視点を踏まえ、理解したり表現したりしながら自分の思いや考えを深めることが示されました。これはかねて私が重視してきた「言葉への気づき」につながるものです。言葉の働きや機能に着目させ、言葉に関わる深い学びを実現することがいつそう求められます。

④評価の観点が大きく変わる

三つの柱に基づいた資質・能力の構造化に伴い、国語科の評価観点は、領域に応じた従来の五観点から、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」の三観点となるようです。アクティブ・ラーニングとの関連や具体的な評価方法等については、今後の検討が待たれますが、大きな変更点として留意しておきたいところ

子どもとともに学びを楽しむ、深める

子どもの側から考えると、特に学びに向かう力は、学習そのものが楽しくなければ育っていきません。また、単に何かができるようになるだけでなく、それが生き方や人生とどう関わるのかを実感しながら、言葉の働きや表現することの意味を考えていく、というプロセスが重要な意味をもちます。

今、あらためて、生きていくことと国語の学習とがどうつながるのかという観点から、学びを楽しむこと、深めることを問い直していきたいと考えます。

高木先生が会長を務める「ことばと学びをひらく会」で研究大会が開催されます。ぜひご参加ください。

ことばと学びをひらく会 第10回研究大会

- 日時：平成28年10月22日(土)10:00～16:40
- 会場：慶應義塾大学 三田キャンパス
- 大会テーマ：「子どもとともに学びを“楽しむ”“深める” ―国語科におけるアクティブ・ラーニングの展開」

特別記念対談
詩人 谷川俊太郎 × 詩人 工藤直子

この他、シンポジウム、ワークショップなど盛りだくさん！
詳細は、本誌同封のリーフレットにてご確認ください。

- 参加費：一般3,000円／学生・院生1,000円
- 申し込み：ウェブサイトより受付中
<http://www.kotoba-manabi.jp>

ことばと学びをひらく会 **検索**

文章中の-----は、「国語デジタル教科書」に収録されている資料や機能です。

読むこと教材(説明文)

「ウナギのなぞを追って」(四年下)

デジタル教科書を導入したもの、どのような場面を使うとよいのか悩むことはないでしょうか。今号からスタートする本連載では、授業のどんなところで「国語デジタル教科書」を使えばよいのか、またそれによって、どのような効果が得られるのかをお伝えします。

四年下の教科書で学習する「ウナギのなぞを追って」は、子どもたちの知的好奇心をくすぐり、興味をもって読むことができる科学読み物です。子どもたちはまず、自分たちにとって身近な生き物であるウナギが、実は多くの謎に包まれていることを知って驚きます。そして、謎を解明していくドキュメント番組のような展開で書かれた文章に引き込まれていくという、とても魅力的な教材です。しかし、その一方で、時系列に沿って事実を整理したり、話題のまとまりごとに整理したりしながら読んでいくことができないと、子どもたちにとって難しく感じる教材でもあります。子どもたちが、最

指導目標

- ◎自分が興味をもったところを紹介するために、文章の内容を的確に押さえて要旨を捉えたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読んだりすることができる。【読(1)イ、エ】【伝国(1)イ(ア)】
- 文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。【読(1)オ】

指導計画(全8時間)

第1次	1時	学習の見通しをもち、学習計画を立てる。
		デジタル教科書の活用場面① 子どもたちの知的好奇心をくすぐる。
第2次	2時	目的に沿って、文章を深く読む。
	3時	・事実を時系列に沿って整理しながら読む。 ・画像についての説明を考えながら読む。 (グループで学び合い)
	4時	デジタル教科書の活用場面② 事実と考えの記述に気をつけながら、調査の道筋を読み取ったり、調査内容を捉えたりする。
第3次	5時	最も興味をもったところを中心に文章を要約する。
		デジタル教科書の活用場面③ 要約や紹介文を書く活動につなげる。
	6時	興味をもったところについて、自分の考えと関連させながら紹介文を書く。
	7時	紹介文を読み合って感じたことを伝え合い、考えを深める。
	8時	学習を振り返る。



1974年生まれ。広告代理店勤務を経験した後、27歳で公立小学校教諭に。横浜市小学校国語研究会を中心に市内の国語教育推進に取り組む。平成24年度文部科学大臣優秀教員に選ばれる。

デジタル教科書の活用場面① 子どもたちの知的好奇心をくすぐる

- ① 子どもたちの知的好奇心をくすぐるための手立て
- ② 事実と考えの記述に気をつけながら、調査の道筋を読み取ったり、調査内容を捉えたりするための手立て
- ③ 要約や紹介文を書く活動につなげる手立て

これらの手立てをより効果的なものにするために、デジタル教科書を活用していきます。

デジタル教科書には、資料として、画像や動画が収録されています。この教材では、「たまご」からウナギが出てくる瞬間「や」ウナギの成長の様子」など、文章だけではなかなかイメージしにくい箇所について、多くの資料が収録されています(※1)。特にウナギの調査を追った動画は、文章で読み取ったことを確認するための資料として有効です。

まず、単元の導入として、本文を読

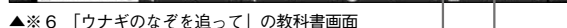
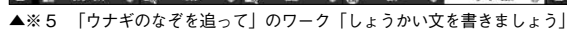
む前に、ワーク「はじめに」(※2)を使い、ウナギについて知っていることを出し合いました。「ウナギのたまご」の写真を見た子どもたちは、自分たちが知っているウナギとはなかなか結び付かない卵の姿に興味津々でした。さらに、「広い海の様子」の写真を見て、そもそもウナギが海で卵を産むことを知らないという子が多く、意外な事実に驚いていました。「ウナギは川にすんでいるイメージがあるけど、どうして海で卵を産むのか」「広い海のどこで卵を産むかなんて、どうやって見つけるのだろう。見つかるのかな」など、数々の疑問が生まれました。ウナギについての関心が高まったところで、文章を読む前に「ウナギの調査」の動画を見せ、内容のイメージをもたせるという方法も考えられますが、あえてこの動画は、単元の出口のところで見せることにしました。なぜなら、調査の様子は、言葉を手がかりにしながらイメージしてほしいと考えたからです。文章の中には、「周りに島一つ見えない海の真ん中」「あざやかなぐんじょう色の海」などの叙述が出てきます。これらの叙述をもとにしながら、子どもたちなりに海をイメージすることを大切にしたいと考えました。また、多くの時間と労力をかけ



▲※2 「ウナギのなぞを追って」のワーク「はじめに」



▲※1 「ウナギのなぞを追って」の資料一覧



※ 5 の例文は、どの叙述に着目して要約しているのか、マーカーを引いて示す。そして、該当する例文を吹き出しに入れて貼付。

まずは紹介文の形式を共有します。ここで大切なことは、紹介文の中に要約を位置づけるということです。つまり、紹介文を書くために要約をする、という目的をしっかりと捉えさせたいうえで学習を進めます。そして、自分が興味をもったところについて紹介するために、「どうして興味をもったのか」ということを自分に問いかねながら、要約していきます。

デジタル教科書の活用場面 要約や紹介文を書く 活動につなげる

しかし、子どもたちにとって、要約は簡単なものではありません。そこで、ワーク「しよかい文を書きましよう」(※5)を使って、ポイントを整理するとともに要約の例文を示しました。そして、教科書画面を開き、例文がどんな叙述に着目しながら要約をしたのか、マーカー機能と吹き出し機能を使い、明らかにしています(※6)。子どもたちは、要約の手順を視覚的に捉えることができたことで、自分の要約に必要な叙述を選んだり、それぞれの関連付けたりしながら要約することができました。

デジタル教科書を活用して

「デジタル教科書には魅力的な画像や動画が多く収録されています。しかし、これらの素材を有効に活用するためには、何を、どの場面で、どのような形で提示するのかなど、授業のねらいに沿って、意図的に活用していく必要があります。あくまでも子どもたちが言葉を介して理解していくことを大切にしながら、子どもたちの理解の助けになったり、さらに理解を深めたりするツールとして画像や動画を活用していくという視点が大切です。

今回の単元で取り組んだ要約は、苦手とする子どもが多い言語活動です。要約をするときに、子どもたちが悩むのは、どの文を選んだらよいのか、どうやって自分の言葉で短くまとめればよいのかという点です。要約の例文を示すだけではなかなか要約ができるようにはなりません。要約をする過程を、デジタル教科書を使って、視覚的に分かりやすく説明していくことで、子どもたちは、要約の手順を具体的に理解することができました。教科書の文章を示しながら、子どもたちと一緒に、リアルタイムで要約の過程を共有していくことは、デジタル教科書だからこそできることだと思います。

この教材では、時系列に沿って、調査活動についての事実が書かれています。また、事実をもとに導き出した筆者の考えも書かれています。そこで、まずは時系列に沿って事実を捉えるために、ワーク「第六段落～第八段落の調査結果をたしかめましょう」を活用し、そこに描かれている地図や、さまざまな大きさのレプトセファルス、船、海山などのアイコンを使いながら、調査をした場所や日などを整理していきましました(※3)。子どもたちには同様のワークシートを配布し、読み取った事実を自分で確認することが

デジタル教科書の活用場面②

事実と考えるの記述に氣をつけながら、調査の道筋を読み取ったり、調査内容を捉えたりする

て行く地道な調査の様子は、動画を見れば一目瞭然ですが、それでは文章を読む目的が薄れてしまいます。言葉を手がかりにして自分なりに読み取った後に、「ウナギの調査」の動画を見せることで、さらなる感動や知的好奇心が生まれ、他の科学読み物への関心を高めることができます。



▲※3 「ウナギのなぞを追って」のワーク
「第6段落～第8段落の調査結果をたしかめましょう」



▶※4 ワークシート（教師が作成したもの）
左側に画像、右側に書き込み欄を設けている。

1 毛筆指導を硬筆に生かす工夫

元静岡市立服織小学校校長

松本健作

今号より、小学校『書写』教科書編集委員の松本健作先生に、硬筆指導について、三回にわたって連載をしていただきます。

松本先生は、子どもたちが意欲的に書写に取り組めるようさまざまな工夫をされています。

1951年静岡県生まれ。
静岡県書写書道振興会
副理事長、前静岡県書
写書道教育研究会長。
県内の小・中学校や書
道教室で講師を務める。
光村図書小学校『書写』
教科書編集委員。



はじめに

小学校の硬筆指導は、鉛筆が主流ですが、フェルトペン、ボールペンなど硬筆の筆記具は多種多様です。今回から始める「硬筆指導の工夫」では、学校生活や日常でいちばん多く使用している鉛筆を核にして、学習指導要領に示されている筆記具を選ぶ活動も取り入れながら(時には毛筆も)、硬筆の指導法を考えていきます。

指導は形から入る、ということをよく聞きますが、姿勢のことや鉛筆の持ち方ばかりを厳しく指導しても、なかなか身

につくものではありません。本連載では、子どもに興味をもたせる授業を展開すること、正しく文字を書くこととする意識を高め、姿勢・執筆の改善につなげることを目指します。

今回は三年生を例に、「毛筆指導を硬筆に生かす工夫」についてお伝えします。学習指導要領の「指導計画の作成と内容の取扱い」にも示されているとおり、「毛筆を使用する書写の指導は硬筆による書写の能力の基礎を養うよう指導」すべきです。しかし実際は、今日は毛筆、次週は硬筆というように、硬毛を分断した指導をしていることが少なくありません。そこで今回は、毛筆と硬筆を関連させて

事例 ①「王さまのおひげ」で左右の払いを習得する活動

一時間の授業の中で、毛筆と硬筆を同時に指導する事例です。毛筆と硬筆の切り替えが素早くできるよう、ここでは、毛筆・硬筆両用の両面下敷き(毛筆用下敷きの裏が硬筆用になっているもの)を

使用していますが、両面下敷きが入手できない場合は、毛筆用の下敷きの下に、硬筆用の下敷きを重ねるという方法でも実践可能です。

(1)黒板に「王さまのおひげ」と書きます。児童は、何が始まるのだろうかと思議そんな顔をし、授業への期待感を膨らませ、教師の次なる言葉や板書に注目します。

(2)次に、教科書22・23ページ(課題文字「木」)を開きます。「王さまのおひげ」を書くことで、「木」の左右の払いの書き方を学習することが本時の目標であることを伝えます。

硬筆用の下敷きを用意させ、書写の準備

運動として、ワークシート①を使い、鉛筆のひと筆書きをさせます(※1)。その際、左右のひげの先端がとがっていることを強調しておきます。

(3)ワークシート②(※2)の左上のますに、鉛筆で「木」を書きます。左右の払いの先がとがっていることを確かめるため、この後、毛筆で学んでいくことを伝えまします。そして、ワークシート③(※3)を配ります(下敷きは毛筆用に替える)。

(4)「木」の左右の払いは、王様のおひげに似ています。今度は毛筆(小筆)で、二人の王様に似合ったおひげを書いてあげましょう」と投げかけて、小筆でひげ

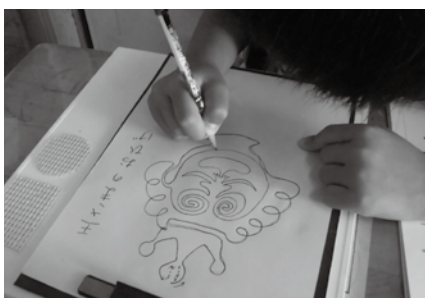
を書かせて、左右の払いの感覚をつかませます。

ひげの書き方の例(※4)にあるように、くねったひげでもOKということで自由に書かせます。書いたら、隣どうしでひげの先端がとがっているか確認し合い、相互に批評します。

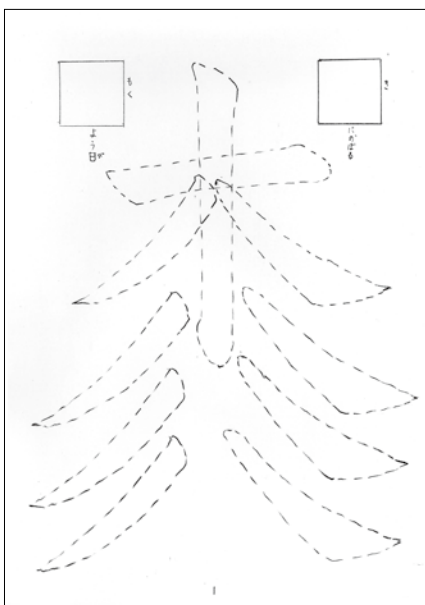


▲※4 ひげの書き方の例

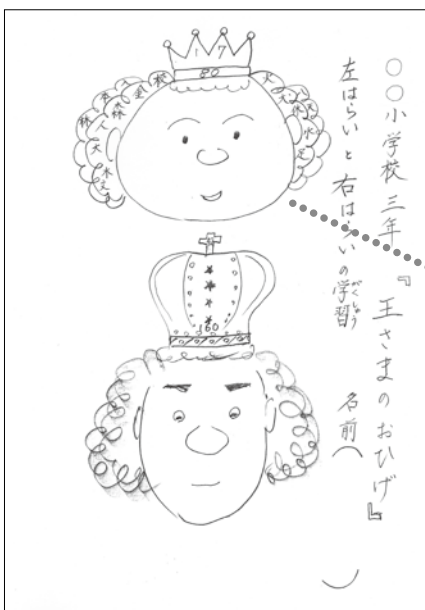
第1学年の配当漢字80字のうち、左右の払いを含む漢字17字が、王様の髪の中にも書かれている。楽しみながら、既習漢字を意識させる工夫。



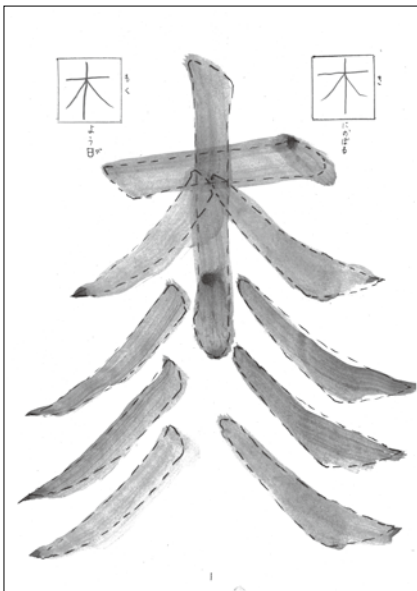
▲※1 ワークシート①に、鉛筆でひと筆書きをする児童。



▲※2 ワークシート②



▲※3 ワークシート③



▲※8 左上の「木」は、授業の最初に書いたもの。右上の「木」は、まとめ書き。左上の「木」に比べて、右上の「木」は払いが意識されている。

※評価は、(7)の【基準】に沿って、授業の終わりに、本人がするか、隣席の友達どうしで行うと効率的です。

※評価の基準はつきりしていれば、教師が評価するよりも、児童どうしの評価のほうが関心度は高まります。

※時間があれば、左右の払いが連続する漢字を練習したり、プリントにして家で復習したりすると定着度は高まります。

(9)下敷きを硬筆用に替えて、まとめ書きをします。ワークシート②の右上のますに鉛筆で「木」と書き、最初に書いたもの(左上のます)と比べながら、左右の払いの違いが表現されているか確かめます(※8)。

・途中で止まらない。

〈左払い〉

(6)教科書で、〈左払い〉〈右払い〉という用語を確かめ、左右の払いの書き方の違いを確認します。

の書き方を練習します(※5)。

(5)王様のおひげの書き方を全員で確認するために、数名の児童に黒板の前に出てもらい、水書板で再現させます。

左のひげも右のひげも、止まることなくササスーッと書くこと、先端をとがらせて書くことができているかを確かめたら、ワークシート②を使用して、払いの書き方を練習します(※5)。



▲※5 ワークシート②を使用して、払いの練習をする児童。

事例②

ひと筆書きで、 筆記具(鉛筆・小筆) に慣れる活動

国語科に位置づけられる書写は、技能教科の一つでもあります。道具に数多く触れ、道具を使いこなし、道具を正しく扱うことに慣れた者が上達の道を歩んでいきます。児童が無理なく道具を使いこなせるようにするために、次のような活動を行います。

(1)ワークシート⑤に、鉛筆でひと筆書きをします。その際、かかった時間を計ります。

(2)小筆に持ち替え、(1)で使用した用紙に墨でひと筆書きをします。

※(1)と(2)の所要時間を比較すると、ほとんどの児童が鉛筆よりも小筆のときのほうが



▲※9 ワークシート⑤に、鉛筆と小筆でひと筆書きしたもの。

が早く終了します(※9)。

この活動で注目したいことは、小筆を素早く動かそうとすると、垂直に近い角度で筆を握るようになるということです。小筆の穂先で線をたどっていくので、自然に筆の軸が立ってくるわけです(※10)。

姿勢や執筆の正しいあり方を身につけるには、正しい状態をより長い時間維持することです。とかく、文字の組み立て指導や基本点画の書き方ばかりが課題視されてしまう書写ですが、技能習得のいちばんの基本は、道具(鉛筆や筆)に慣れ、一体感をもって学習に臨むことです。

三年生になり、硬筆と毛筆を利用して文字を習得していくこの段階では、今まで以上に姿勢や執筆にこだわった指導が重要になります。低学年のときよりも骨格、体格がしっかりしてきた学齢期だからこそその重点指導です。



▲※10 筆の軸がしっかり立っている。

・なめらかにサッと書く。
・始筆からだんだん筆圧をなくして細くなっていく。

〈右払い〉

・徐々に筆圧を加える。
・第一画の横画の終筆の真下あたりでいったん止まり、その後徐々に力を抜いて右の方向に払うように筆を運ぶ。

(7)毛筆で「木」を書くときの基準(気をつけること)を話し合いで確かめます。

※授業終盤のまとめ書きの評価は、この基準をもとにするので、児童にも分かりやすい表現にします。

【基準】

①左右の払いは、先端を細くする。

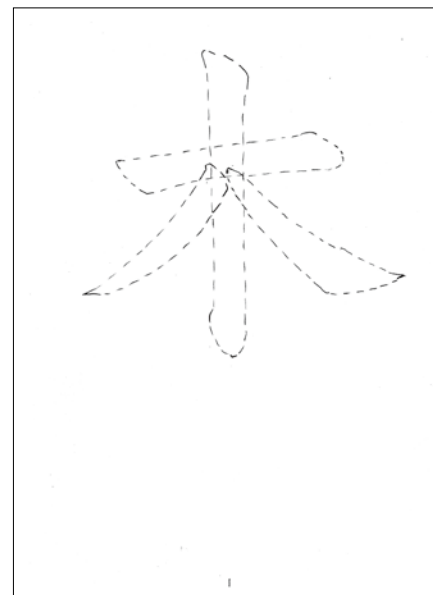
②左右の払いは、筆圧に注意しながら払いの方向に気をつけて書く。

③右払いは、軽く止めてから右の方向に払う。

(8)基準①②③に気をつけて「木」を毛筆で書きます。

・かご文字になっている「木」(ワークシート④(※6))に、左右の払いが点線の枠の中に入るよう、筆圧に注意しながら書きます。

・ワークシート④を使用した後、半紙に一〜二枚書いたら(※7)、前後左右の友達と相互に批評し合い、次に書くときの留意点にします。

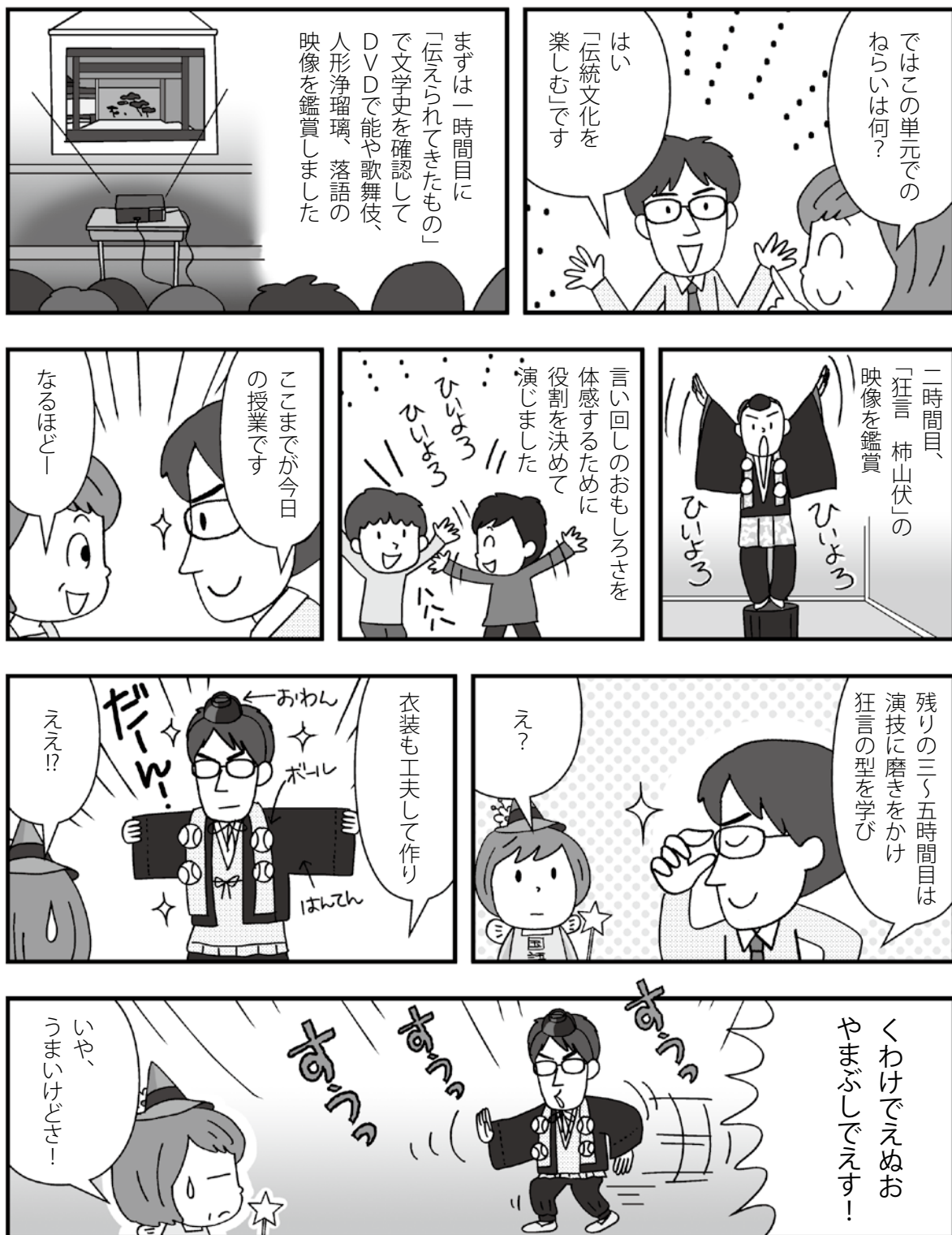


▲※6 ワークシート④



▲※7 ワークシート④を使用した後、半紙に「木」を書く。

こしみず・かおり
 広島県生まれ。玉川大学教師教育リサーチセンター客員教授。23年の教員生活の後、港区教育委員会指導主事、東京都教育庁主任指導主事、小学校校長等を経て、現職。光村図書小学校『国語』教科書の編集委員を務める。



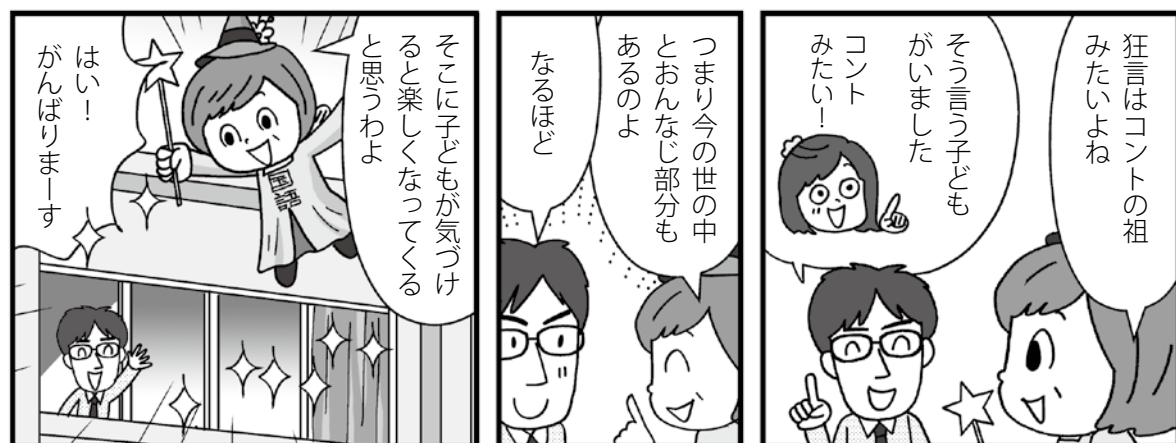
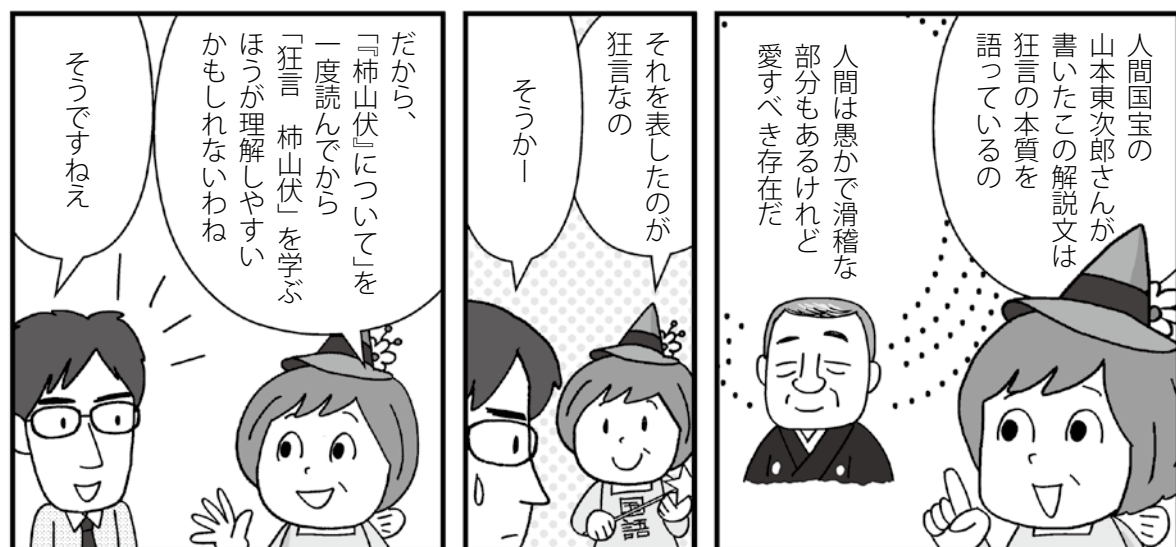
なるほど国語指導

妖精コッシーが教えます 7

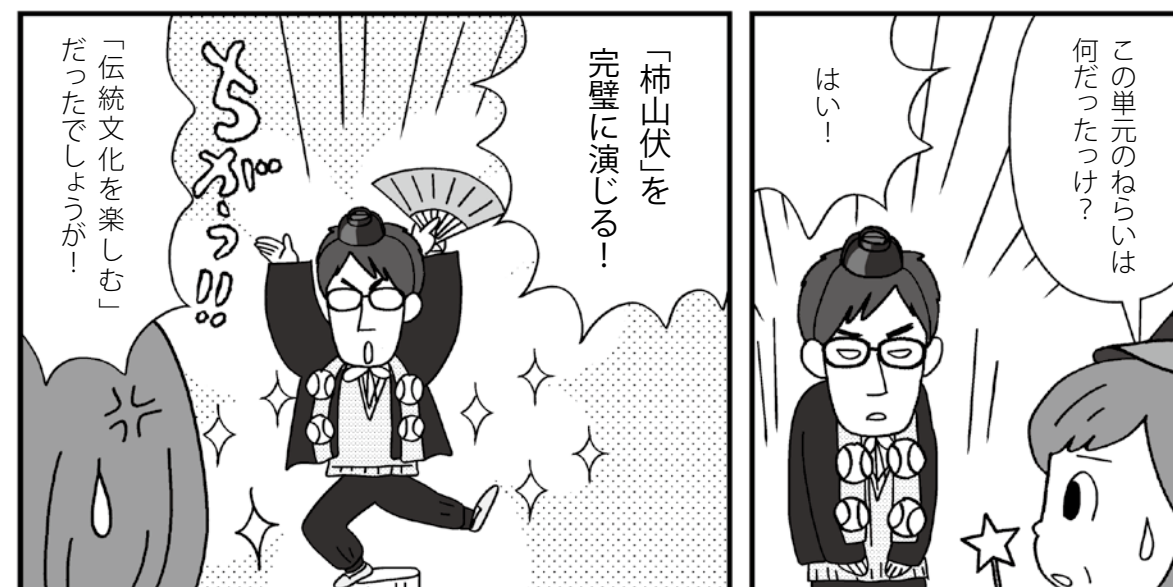
指導の意図を忘れずに！

作・画／あべかよこ 監修／興水かおり





子どもにどんな力をつけるのか、指導意図の明確な言語活動をデザインしましょう。単なる「楽しい活動」で終わることなく、「楽しい学び」につながる確かな授業をあなたのアイデアで。(コッシー)



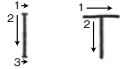
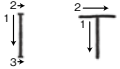
国語 平成29年度用教科書 訂正箇所のお知らせ

平成29年度用1～4年上巻および5・6年教科書では、平成28年度用教科書から以下の箇所を訂正いたします。校内の先生方でご確認のうえ、ご指導の際には十分ご注意くださいようお願いします。

学年	巻	ページ	行など	28年度	29年度
4年	上	7	上段11	段落をとらえ、	段落と <u>その内容</u> をとらえ、
		122	下段4	記録を活用して	<u>ろく</u> 記録を活用して
5年		162	欄外	(挿入)	自ら (※「自」の「みずから」の読みの学習箇所)
		165	欄外	<u>自ら</u>	(削除)
		184	下段5	出来事や事件	出来事や事件 ^{けん}
6年		71	枠内	自分と本の関わりについて考える	自分と本 <u>と</u> の関わりについて考える
		82	作例	<u>中学生</u> 以下は、 <u>入場</u> 無料。	<u>高校生</u> 以下は、 <u>入館</u> 無料。
		98	下段3-4	「予想される反論に対する考え」	「予想される反論・ <u>それ</u> に対する考え」
		129	キャプション	詩「雨ニモマケズ」を書いた手帳。賢治の死後、発見された。	詩「雨ニモマケズ」を書いた手帳。賢治の死後、発見された。 (※冒頭を1字下げる)
		131	上段12	なぜ、十二月にしか	なぜ、 <u>「十二月」</u> にしか
		158	下段3	これはいかなこと。	<u>(どうしたことか)</u> これはいかなこと。
		162	4	<u>(どうしたことか)</u> これはいかなこと。	これはいかなこと。
		240	上段10	自分と本の関わりについて考える	自分と本 <u>と</u> の関わりについて考える
		244	左列2段目	<u>まじめ</u> に、「てつがく」したり	<u>真面目</u> に、「てつがく」したり
		259	作者紹介	一九一二年、 <u>静岡</u> 県生まれ。	一九一二年～ <u>二〇一五</u> 年。 <u>静岡</u> 県生まれ。

書写 平成29年度用教科書 訂正箇所のお知らせ

平成29年度用教科書では、平成28年度用教科書から以下の箇所を訂正いたします。校内の先生方でご確認のうえ、ご指導の際には十分ご注意くださいようお願いします。

学年	ページ	行など	28年度	29年度
3年	34	中段	 (※ローマ字一覧表／4年 p39, 5年 p37, 6年 p39も同様)	 (※ローマ字一覧表／4年 p39, 5年 p37, 6年 p39も同様)

平成29年度「言語教育振興財団」研究助成金一般公募のお知らせ

一般財団法人「言語教育振興財団」では、小・中・高等学校、大学、教育研究団体等を対象とし、今後の情報化・国際化の進展を踏まえ、言語教育（国語教育・外国語教育等）の充実・発展を図るために、理論と実践の分野について優れた研究開発を行う団体または個人に対して助成します。

助成内容	①言語教育の内容・方法に関するもの（教育内容・方法部門） ②言語教育教材の質的向上に関するもの（教材部門） ③教育機器を利用した言語教育の在り方に関するもの（教育機器部門）
研究期間	平成29年4月～30年3月（原則1年間）
応募資格	言語教育（国語、英語、日本語等）に関して研究開発を行う教員及び教育開発を行う小・中・高等学校・大学・教育研究団体（学校の学年・教科単位を含む）、上記に準ずると見做される団体及び個人
助成件数及び金額	助成件数は50件まで 助成金額は1件につき20万～40万円 (団体の場合は40万円まで、個人の場合は30万円まで)
応募方法・締め切り	・研究開発活動についての企画書または実施した実践報告書等の参考書類を添えて、別に定める「助成金交付申請書」を、平成28年12月22日（木）必着で、当財団事務局に郵送。 ・「助成金交付申請書」を希望される方は、返信用封筒（82円切手添付）を同封の上、当財団事務局までお申し込みください。 ・この応募要項については、都道府県教育委員会等の推薦の場合も同様に扱います。
決定・発表	当財団「選考委員会」にて選考を行い、選考結果は平成29年2月末までに文書にて通知します。平成29年3月末に銀行振り込みで交付します。
問い合わせ先	一般財団法人言語教育振興財団 事務局 〒141-0021 東京都品川区上大崎2-19-9 TEL 03-3493-7340 FAX 03-3493-2174 E-mail:gengo-k@star.ocn.ne.jp